

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 1 月 20 日作成)

小委員会名	室内空気質小委員会	主 査 名：柳 宇 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (空気環境運営委員会)	委員長名：田辺 新一 主 査 名：山中俊夫
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内空気中の化学物質のほか、微生物、臭気、アレルギーなど室内空気汚染物質全般について、新しい情報を収集する。 ・ CO₂濃度を始めとする空気質設計法及び測定法の基準を提案する。 ・ 居住者のための空気質設計指針を提案する。 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：	
	主査：柳宇 (工学院大学) 幹事：鍵直樹 (東京工業大学) 委員：東賢一 (近畿大学), 木村洋 (長谷工コーポレーション), 齊藤智 (竹中工務店), 武廣絵里子 (鹿島建設), 高塚威 (新日本空調), 長谷川麻子 (熊本大学), 光田恵 (大同大学), 村上栄造 (朝日工業社), 野崎淳夫 (東北文化学園大学), 山口一 (清水建設), 湯懐鵬 (新菱冷熱工業), 四本瑞世 (大林組), 横山真太郎 (北翔大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空気清浄装置による室内空気質改善の評価方法検討 WG：空気清浄機の性能評価手法の情報収集 ・ ハウスダスト調査検討 WG：室内ハウスダストの健康影響に関する情報収集 ・ 臭気に関する学会環境規準検討 WG：学会基準の改定に関する検討 ・ 燃焼排ガス汚染検討 WG：室内燃焼排ガスによる空気質の悪化に関する検討 	
2014 年度予算	178,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	
委員会活動の問題点・課題	1. 地方から来られる方の旅費の工面。 2. 3.

2014 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>最終年度の今年度は、建築物における環境衛生管理基準にある二酸化炭素の 1000 ppm について特に議論を行った。本小委員会においては、前小委員会から大幅に委員の入れ替えを行い、特に民間からの会員増強に力を入れ、新たな分野の情報共有を目指し、活動を行ってきた。上記の問題についても、現場の意見を参考にすることができ、有意義な検討を行うことができた。また、従前から検討を行っているハウスダストの健康影響に関する知見、臭気的环境基準に関する検討、燃焼排ガスに関する課題、空気清浄装置の性能表示のあり方など、それぞれの WG において議論することができた。</p> <p>また運営委員会において企画された 2013 年度の「空気シンポジウム」においては、室内空気質の立場より、講演内容及び講演者について提案を行い、貴重な情報提供を行うことができた。</p> <p>来年度以降の活動については、新たに屋外で注目されている PM_{2.5} について室内環境での状況調査及び室内オゾンについて新たに WG を設置し、検討を行うこととした。更には、来年度に開催される空気シンポジウムの企画立案を行っており、本小委員会で議論した内容を基に構成する予定である。</p> <p>以上より、本小委員会における本年の活動については、十分な成果が得られたものと言える。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。